

第37回山口県消費者大会 「きずなで守る 私たちの暮らし」

12月9日、山口市において220名が参加し山口県消費者大会が開催されました。主催は山口県消費者団体連絡協議会（山口県消団連）、構成団体は県連合婦人会、県母親大会連絡会、県JA女性組織協議会、新日本婦人の会県本部、コープやまぐち、県漁協女性部の6団体です。

今年はテーマを「きずなで守る 私たちの暮らし」とし、東日本大震災から学んだこと、くらしの見直し、これから取り組んでいくことを考える大会になりました。

記念講演 「災害はいつでもどこでも ～知って得する天気の世界～」

気象予報士・防災士の坂本京子氏に、天気と防災について講演していただきました。身近に起こった災害の事例や、雨・雲・風など天気に関する知識、災害が起きた時の心構えなどの話でした。

山口県も2009年7月の豪雨災害では、各地で土砂崩れなどが相次ぎ、大きな被害がでました。当日は朝から昼にかけて、7月の平均年間雨量に匹敵する230ミリ以上の激しい雨が降ったのが要因です。1時間の降水量が50mm以上の降水発生回数が30年前の1.5倍に、100mm以上の降水発生回数は2倍に増えていることを知り、少しの雨でもいつもと違う降り方、川の音に注意が必要です。

自分が住んでいる地域の過去の災害を知り、災害に対する準備、家族での話し合いなど緊急時の対策を早急にする、自然と向き合う知恵を身につけるなど、参加者の防災意識を高めることに繋がったようです。



気象予報士・防災士の坂本京子さん

活動報告 山口県消団連の取り組みとして、今年で10回目になる山口県消費者行政調査報告では、13市6町のすべてに相談窓口ができ相談員が配置されたこと、その取り組み内容を報告しました。

県連合婦人会の防災学習会の報告では、地域の女性が災害の時にはたす役割、地域防災、災害・防災活動のとらえかたなどを学んだ報告がありました。これまでの地域防災活動の初期消火訓練・応急救護訓練・火災予防啓発などに加え、災害の知識を身につけ、自治体の被害想定、過去の災害の掘り起こし、災害時の要救護者の把握など、災害をより科学的にとらえ住民参加の防災マップづくりなど行政や地域住民を巻き込んだつながりづくりが大切だということを学びました。

大会アピール 東日本大震災は、私たちの暮らしや防災の意識を大きく見直すことになりました。災害はいつでもどこでも起きると考え、災害に対する備え、防災について地域での話し合い、行政や関係機関と話し合い、お互いに助け合える環境をみんなで創っていきます。

原子力発電所の事故により、私たちはエネルギーについても見直しがせまられています。節電に取り組み自分のできる省エネ行動をしていきます。

また、訪問販売やオレオレ詐欺などもあとを絶たず、高齢者の消費者相談も増加しています。くらしの安全を守るために消費者が手をつなぎ、情報を共有し、学習していくことが大切です。一人暮らしの方への声かけ、それが災害が起きたときの心強いネットワークになります。みんなで安心できるくらしを創っていくことをみんなで確認し、大会を終了しました。



第37回山口県消費者大会の会場